

たまねぎのべと病に引き続き注意！

1 発生状況

- (1) 4月下旬の巡回調査においてはべと病の発生は確認されていないが、向こう1ヶ月の降水量は平年並〜多いと予想されている。べと病は降雨後の多湿時に急激に発生が広がるので、特に毎年発生が見られるほ場においてはほ場を良く見回り、早期発見・早期防除を実施する。

2 生態と発生条件

- (1) 越年り病株が感染源となり、3〜5月に温暖で降水量が多いと2次感染株の発生が増え、急速にまん延する。2次感染株は、淡黄緑色〜紫黒色の病斑で楕円形の症状を呈する(図1〜3)。
- (2) 気温6〜19℃で孢子を形成する。最適気温は13〜15℃。
- (3) 気温15℃前後、湿度90%以上で孢子が発芽する。
- (4) 孢子は発病株から周辺100m程度に飛散し、強風時はさらに広範囲に及ぶ。



図1 2次感染株(発生初期)
(霜状のかび)



図2 2次感染株
(黄色で楕円形をした一般的な病斑)



図3 2次感染株
(急速に生じ進行した病斑)

3 防除

- (1) 感染前に予防剤を散布することが重要。発生を認めたら、発病株は抜き取り治療剤を散布する(表)。
- (2) 抜き取った発病株は次年度の感染源となるため、集めてほ場外に持ち出し処分する。

表 たまねぎ べと病の防除薬剤(例) 散布にあたっては農薬のラベルを確認すること。

薬剤名	系統(FRAC)	種類	希釈倍数	使用時期	稗刈回数
ジマンダイセン水和剤・ ペンコゼブ水和剤	ジチカバメト(M3)	予防	400~600 倍	収穫3日前まで	5回以内
ベトファイター顆粒水和剤	その他(27) CAA(40)	治療 治療	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内
リドミルゴールドMZ	ジチカバメト(M3) フェルアジド(4)	予防 治療	500~ 1,000倍	収穫7日前まで	3回以内
ホライズンドライフロアブル	その他(27) QoI(11)	治療	2,500倍	収穫3日前まで	3回以内
プロポーズ顆粒水和剤	クロロニトリル(M5) CAA(40)	予防 治療	1,000倍	収穫7日前まで	3回以内
ザンプロDMフロアブル	CAA(40) QoSI(45)	治療 予防	1,500~ 2,000倍	収穫7日前まで	3回以内
メジャーフロアブル	QoI(11)	治療	2,000倍	収穫前日まで	3回以内

注) ジマンダイセン水和剤及びペンコゼブ水和剤、リドミルゴールドMZなどに含まれる成分マンゼブの総使用回数は、5回以内。ベトファイター顆粒水和剤及びプロポーズ顆粒水和剤などに含まれる成分ベンチアバリカルブイソプロピルの総使用回数は、3回以内。ベトファイター顆粒水和剤及びホライズンドライフロアブルなどに含まれるシモキサニルの総使用回数は、3回以内。